

科 目	必・選	担 当 教 員	学年・学科	単位数	授 業 形 態							
日本事情 (Japanese Affairs)	必修	各学科	4 年生 (留学生) 物質工学科	2	通年							
授業概要	各 5 学科 (一般科目を含む) に関連する日本的な事柄についての背景を理解したり、体験を通して学習し、基本的な知識を習得する。											
到達目標	各 5 学科 (一般科目を含む) に関連する日本的な事柄についての知識を習得する。											
評価方法	課題 1 0 0 %											
教科書等	必要に応じて配布する。											
内 容					学習・教育目標							
第 1 週	現代社会における「不安」 (3 年生までの授業 < 倫理・歴史など > との関連を説明する)				A							
第 2 週	「世紀末」の芸術、哲学などにおける「不安」、ナショナリズムの台頭と「不安」				A							
第 3 週	グローバル化の進展と対立の激化 (アメリカ社会におけるイスラム教)				A							
第 4 週	外国人に対する見方 (日本人は外国にいかに見られたか)、ステレオタイプ				A							
第 5 週	外から入ってくるものに対する恐怖感と好奇心 (マンガや子ども向け番組など)				A							
第 6 週	日本製マンガ・アニメの世界進出				A							
第 7 週	マンガの現状とコンテンツ産業 (期待される日本のコンテンツ産業)				A							
第 8 週	科学技術の進化と社会 (生殖医療の最前線と「不安」)				A							
第 9 週	科学技術の進化と社会 (科学研究と偽情報)				A							
第 1 0 週	科学技術の進化と社会 (ネット犯罪の事例)				A							
第 1 1 週	情報技術の革新と金融取引の革新 (ミリ秒の世界)				A							
第 1 2 週	マネーの暴走と金融危機				A							
第 1 3 週	お金の役割、新しい可能性 (グラミン銀行の事例で考える)				A							
第 1 4 週	社会的つながりを作り出す「ことば」				A							
第 1 5 週	まとめ、外から侵入される不安と社会内部の不安の関連				A							
第 1 6 週	一般科目 日本の社会や文化や歴史など				A							
第 1 7 週	同じ				A							
第 1 8 週	同じ				A							
第 1 9 週	機械工学科 機械製造・品質管理など				A							
第 2 0 週	同じく				A							
第 2 1 週	電気情報工学科 電気や情報など				A							
第 2 2 週	同じ				A							
第 2 3 週	物質工学科 化学や物質・食品など				A							
第 2 4 週	同じ				A							
第 2 5 週	環境都市工学科 環境や土木など				A							
第 2 6 週	同じ				A							
第 2 7 週	講演会・きのくにサイエンスセミナー参加など				A							
第 2 8 週	同じ				A							
第 2 9 週	同じ				A							
第 3 0 週	同じ				A							
(特記事項)		JABEE との関連										
内容については前後することがあります		JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
		本校の学習	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B
		・教育目標										

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。)

第1週

- ・ 新聞社会面や雑誌の事例を通して、現代社会の不安定さについて捉え、半年間の授業で考えるテーマを提示する。

第2週～第4週

- ・ 近代化が進展する中で、芸術・文化の中で「不安」が大きなテーマとなっていたことを知る。
- ・ 近代化の進展が社会関係を大きく転換したことを大きな視野から概観する。
- ・ 近代化の進展とナショナリズムの興隆の関係について、具体例を通して知る。
- ・ グローバリ化が進行する中で、民族・宗教が入り乱れる様相をニューヨークにおいてイスラム教徒が増加している事例を通して、具体的に知る。

第5週～第8週

- ・ 「ミカド」「ウルトラマン」「セーラームーン」などの作品をいくつか取り上げる。
- ・ 作品を見ながら、「ステレオタイプ」によるものの見方について考える。
- ・ ウルトラマンなどの作品がなぜ長く続いたのかを考える。
- ・ これらの作品で「不安」がどのように扱われているのかを分析する。
- ・ セーラームーンなどの作品がフランスなど海外に進出しているその様相を具体的に知る。
- ・ コンテンツ産業の現状と問題点を具体的に知る。

第9週～第11週

- ・ 科学技術の先端的事例をいくつか取り上げ考察する。一つは、生殖技術。病気を治す、予見するなどの技術がなぜ必ずしも人間に安心を与えないのかなどを考える。また論文ねつ造の事例についても考える。もう一つは情報通信技術。ネットワーク社会がいかにして新たな「不安」を作り出してしまうのかを具体例を通して考える。
- ・ 情報通信技術がどのように金融取引に使われているかを具体的に知る。
- ・ 膨大な情報の蓄積が進行していることの歴史的意味を考察する。

第12週～第14週

- ・ ネットワークによる金融取引（投機）の実態とその問題点を具体的に知る。
- ・ バングラデシュにおけるグラミン銀行・ブラック銀行による「マイクロクレジット」について具体的に知り、ヘッジファンドなどによる投機と対照する。そのことを通して、現代社会において信頼関係をいかに再建できるのかを考える。

第15週

- ・ これまでの内容について、全体を通してのまとめを行う。

第16週以降

- ・ ガイダンス

5 学科（一般科目を含む）に関連する日本的な事柄についての背景を理解したり、体験を通して学習し、基本的な知識を習得する。学生たちが各トピックに関心を持つようになるために追加資料を使用することがあります。